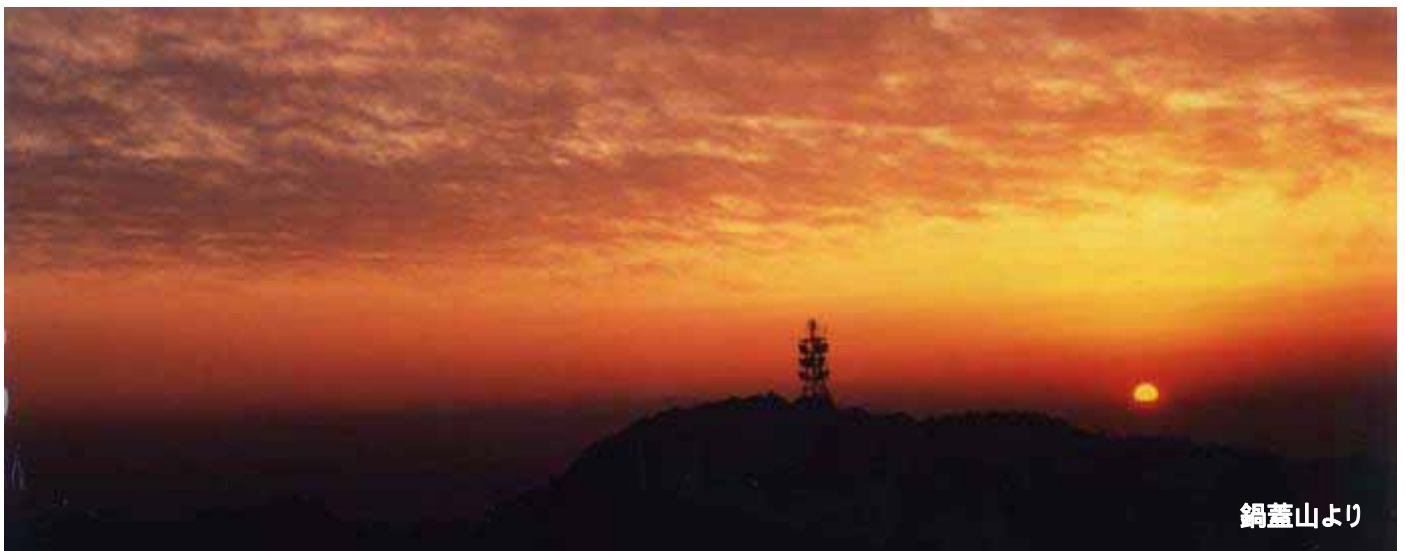


## 2. 私たちの住む街の素晴らしさ

### 2-1. 六甲山地の豊かな自然の恵み

六甲山地は、豊かな自然に恵まれた緑の森で、四季を通して、私たちを楽しませてくれます。しかし、神戸が開港（慶応3年：1868年）したころは、白い岩はだばかり見え、荒れ果てた山だったといわれています。現在の緑あふれる六甲山地は、その後、人々の手によって、木々が1本1本植えられ、100年以上の歳月をかけて再生されたものです。今、私たちの目に映る山なみは、かけがえのない財産です。

木々の種類や生きものも非常に豊富です。古くから六甲山地を通る道も多く、今ではこうした道が登山道や散策路として市民に利用されています。こうした道を歩くと、四季折々の植物などが楽しめます。



## 2-1-1. 六甲山地の緑



縄文時代の六甲山地の植物は、シイ、カシなどの照葉樹林（つやつやした厚い葉を持つ樹木）でした。

六甲山地は緑豊かな山でしたが、社寺林以外は、薪を得たり草を刈ったりして、自分たちの力ではもともにもどれないほど、樹木が切り出されました。明治初期には地表が見えてしまうほどになりました。もともと崩れやすい性質を持つ六甲山地は、風雨にさらされ荒れ果ててしまったのです。

その後、明治35年（1902年）から始まった緑をとりもどすための工事によって、六甲山地は植物の宝庫となりました。

新湊川流域周辺では、貴重な植物として、イワタバコ、ショウジョウバカマ、コバノミツバツツジ、チャルメルソウなどが確認されています。その他にも、高尾山・菊水山周辺ではフジバカマやユキヤナギ、さらに菊水山では、イソヒバやコバノミツバツツジなどの貴重な植物が見られます。

これらの植物は、たいへん貴重なので採取はしないでください。



六甲山地の緑の歴史



### 六甲山地は昔、草木のない山だったって知ってた？

緑豊かな六甲山地は、人口が増えるにしたがって、多くの薪や草が切り出され、草木のない山になりました。その後、明治35年（1902年）から緑をとりもどすための活動が始まり、ヤシャブシ類、ニセアカシア、マツ類、スギ、ヒノキ、クヌギ、カシ類などを中心とした植樹を進め、現在のように緑を回復させています。



## アリマウマノスズクサの名付け親は、<sup>まきの とみ た ろ う はく し</sup>牧野富太郎博士なんだよ！

アリマウマノスズクサの名前は、日本の植物分類学<sup>ぶんるいがく</sup>の父・牧野富太郎博士が、昭和12年（1937年）に馬の形に似た花と葉を神戸市北区の有馬温泉<sup>ありま</sup>近くで発見し、命名されました。

この植物は、5月～6月に花が咲き、神戸付近では、六甲山にある六甲高山植物園などで見ることができます。



アリマウマノスズクサ

(写真提供: 兵庫県立人と自然の博物館)



## 六甲の名花「<sup>まぼろし</sup>幻の花」シチダンカって知ってる？

シチダンカは「幻の花」「幻のアジサイ」といわれています。その理由は、シーボルトが江戸時代にヨーロッパで「日本植物誌」にて紹介<sup>しょうかい</sup>して以来、だれもその実物を見たことがなかったからです。しかし、昭和34年（1959年）に六甲ケーブルの西側で再発見されました。それは、シーボルトが紹介して以来、約130年ぶりのことでした。

シチダンカは、森林植物園で栽培<sup>さいばい</sup>されていて、6月中旬<sup>ちゅうじゆん</sup>～下旬<sup>げしゆん</sup>にかけて見ごろをむかえます。



シチダンカ

(写真提供: 兵庫県立人と自然の博物館)

新湊川の水辺では、1年を通して四季折々の草花<sup>おりおり</sup>を見ることができます。

春



オランダガラシ

夏



センニンソウ

秋



ミゾソバ



ツルヨシ



ジュズダマ



カワラヨモギ

六甲山地では、1年を通して四季折々の草花<sup>おりおり</sup>を見ることができます。

春

出典：神戸・六甲山系の森林 <http://www.rokkosan-shizen.jp/>



コバノミツバツツジ



クサノオウ

( 毒性が強いため触れないでください)



ナガバナタチツボスミレ



ホタルカズラ

初夏



テイカカズラ



ウツギ



スイカズラ



モチツツジ

夏



ネムノキ



クサギ



シャシャンボ



オトギリソウ

初秋



ヒヨドリバナ



シラヤマギク



マルバハギ



アキノノゲシ

秋



アキノキリンソウ



コウヤボウキ



ノコンギク



ヤマハッカ



四季折々の草花を観察してみよう！！

## 2-1-2. 湊川周辺の生き物たち



六甲山地にはどんな生き物がいるのかな？

### ほ乳類

六甲山地では、ニホンイノシシ、アカネズミがほぼ全域で確認されています。



ニホンイノシシ



アカネズミ



ノウサギ

イノシシがふえた最大の理由は、六甲山地の緑が回復し、どんぐりの実る木が多く育ったためといわれています。

その他の生息するほ乳類<sup>にゅうるい</sup>

- ・イタチ
- ・タヌキ

- ・ニホンリス
- ・キツネ

…など

### 鳥

六甲山地では、130種を超える鳥類が確認されています。



オオルリ



キジバト



ツグミ

その他の生息する鳥

- ・コゲラ
- ・モズ
- ・コサギ

- ・ホトトギス
- ・ルリビタキ
- ・カワセミ

- ・ヒヨドリ
- ・キセキレイ

…など

### 両生類

六甲山地では、ニホンヤモリ、モリアオガエル、ニホンアカガエルなどが確認されています。



ニホンヤモリ



モリアオガエル



ニホンアカガエル

昆虫

六甲山地では191科435種こんちゅうの昆虫が確認されています。



シオカラトンボ



アオスジアゲハ



オニヤンマ

その他の生息する昆虫

・ ナツアカネ

・ ミヤマカワトンボ

・ アキアカネ

・ ツマグロヒョウモン

・ ナガメ (カメムシ)

・・・など

魚

アマゴ、カワムツ、オイカワ、カワヨシノボリなどが生息しています。



アマゴ



カワムツ



オイカワ



からすは

鳥原貯水池や石井ダムでは、多くの水辺の鳥を観察することができるんだよ！

鳥原貯水池や石井ダムでは、いろいろな種類の水辺の鳥を観察することができます。



カイツブリ



カワウ



アオサギ



オシドリ



マガモ



カワセミ



キセキレイ



セグロセキレイ



きちょう

貴重な生き物をみんなで守るためにはどうしたらいいか、  
みんなで話し合ってみよう！

## 2-1-3. 六甲の水と神戸の水がめ



六甲の水は「おいしい水」の代名詞として全国に知られています。

神戸市は、港町として栄えてきましたが、多くの船が進んで神戸港に寄り、船に水を積み込んだといわれています。この水は、コウベウォーターと呼ばれ、世界の船乗りに愛されてきました。



「コウベウォーター」は、司馬遼太郎の本にも出てくるんだよ！

“その昔、外国の船乗りたちは、赤道を越えても腐らずおいしさも変わらない「布引の水」を「コウベウォーターは世界一の名水」と喜んだ”という話が、司馬遼太郎の『街道をゆく』で紹介されています。

新湊川の上流には、神戸市民の飲み水を確保している烏原貯水池があります。

明治時代、コレラなどの伝染病が神戸市で流行し、この予防のために水道の整備が必要となり、その水源として布引・烏原貯水池の建設が計画されました。後に、「水道市長」と呼ばれる初代神戸市長鳴滝幸恭は、布引貯水池完成後の明治34年（1901年）に烏原貯水池の建設を始め、4年後の明治38年（1905年）に完成させました。

今では、烏原貯水池の周囲は「水と森の回遊路」として整備され、市民の気軽な散歩道として利用されています。



烏原貯水池



「コウベウォーター」を飲んでみよう！！



からすはら てい ごがん う こ いしす  
 烏原貯水池のえん堤から、護岸に埋め込まれた石臼が見えるよ！

烏原貯水池を造るために、烏原村という1つの村が、明治37年（1904年）貯水池の底に沈みました。

この村の人々は四面を山に囲まれ、烏原川にかかる水車を利用して、石臼で菜種油を絞ったり、粉や線香の原料を作っていました。

烏原貯水池の護岸に使われている160個の石臼は、当時使われていたものです。これらの石臼は、烏原村の人々が水没によって村から離れるに当たり、村の足跡と神戸の繁栄を願って記念に残したものです。

この村は、貯水池の整備により日本で最初に沈んだ村ともいわれていますが、村を沈めてでも水源の確保が必要とされたほど、当時の神戸には水道が重要であったことがわかります。



水車小屋の分布  
 (明治18年:1885年ごろ)



護岸に埋め込まれた石臼



神戸市には、多くの人口をかかえながらも3つしか貯水池がないんだよ！

神戸市は水源が乏しく、中央区の布引・兵庫区の烏原・北区の千苅の3つの貯水池しかありません。そのため、市の消費量の3/4を市外の琵琶湖、淀川の水にたよっています。



布引貯水池



烏原貯水池



千苅貯水池



水の大切さをみんなで話し合ってみよう！！



## 2-1-4. 六甲山地の「道」・街なかの「道」



私たちの街の六甲山地には、「有馬街道（国道428号）」や「山陽道（西国街道）」など昔からの道があり現在も利用されています。また、烏原貯水池の周辺では、「ひよどり道」や「水と緑の回遊路」などが整備され、自然散策路として利用されています。



有馬街道(国道428号)



ひよどり道



水と森の回遊路



昔の人が歩いて有馬温泉まで行っていた道は、今、車が走っているんだよ！

有馬街道は、現在の国道428号にあたり、有馬温泉に至る街道として利用されています。



烏原貯水池周辺の自然散策路を家族と歩いてみよう！！



登山やハイキングをする時には、注意しなくちゃならないことがあるんだよ！

準備  
する  
もの

服装

動きやすい服装で、はきなれた運動靴や登山靴をはきましょう！

準備するもの

- ・地図（必需品）
- ・リュックサック
- ・雨具（カッパ）
- ・水
- ・おむすびやパンなどの食料
- ・あめやチョコレートなどの行動食
- ・方位磁針（コンパス）
- ・筆記用具
- ・カメラ
- ...など。



ヤマカガシ

注意  
する  
こと

山で火を使わない！ ゴミは持ち帰る！ 野生動物にえさをやらない！

とっていいのは写真だけ、草花などは採取しないで

観察しましょう！

マムシ、ヤマカガシ、スズメバチなどに出会ったら要注意！



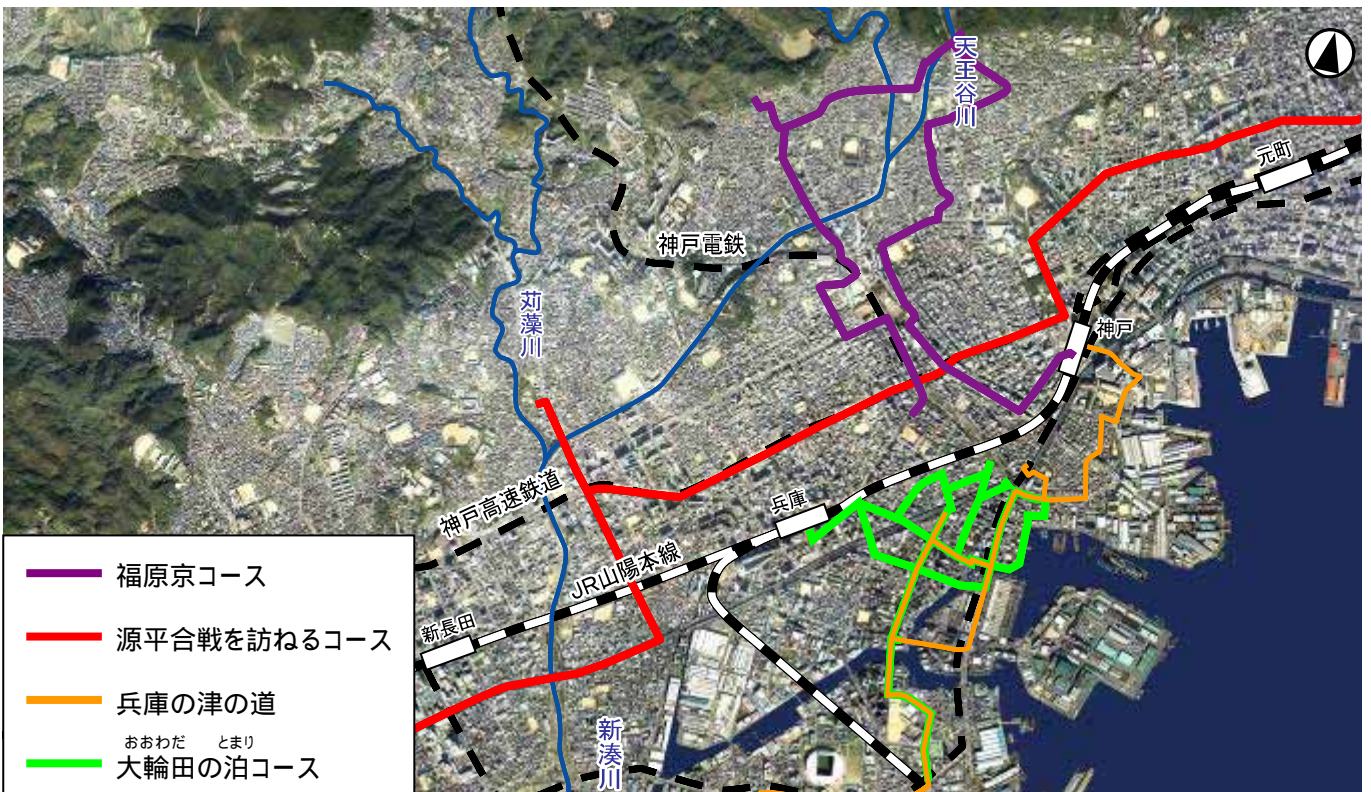
マムシ



スズメバチ



私たちの暮らす街の中には、いろんな道があるんだよ！



街なかにあるいろんな道を巡って、街の不思議を探してみよう！！

## 2-2. 私たちの街の暮らしの歴史



「湊川」の名は、古くは奈良時代から記録にあり、また南北朝時代に足利尊氏あしかが たかうじと楠木正成くすのき まさしげが戦った「湊川の戦い」などにより、その名は全国的に知られています。

川の流れる場所は、現在の新湊川へと移り変わっていますが、過去から現在に至るまで、その流れを絶やすことなく私たちの暮らしや街の発展を見続けています。

神戸は開港後に急速に発展した歴史の新しい街といわれます。しかし、私たちが暮らす新湊川周辺には、昔からの人々の暮らしや街の発展などの様子を、見て・感じて・学べるものがたくさんあります。



ゆき みのごしょ きゆうせき ひ ゆきのごしょ  
雪見御所旧跡の碑（雪御所町）

## 2-2-1. 国際的な港町・神戸の原点 おおわだ とまり 大輪田の泊



神戸港は「西洋文化の窓口」として時代の先端を歩み、日本を代表する国際港として発展してきました。その歴史は古く、奈良時代にまでさかのぼります。

時代	神戸港の歴史
奈良時代	<p><small>ぎょうき せつばんごどまり</small> 僧行基が摂播五泊の制を定めたと伝えられる。</p> <p><b>大輪田の泊の始まり</b></p> <p>天然の良港</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和田岬によって、風波や潮流がさえぎられる。</li> <li>・六甲山によって北西の風がさえぎられる。</li> <li>・海底が深く、船が入りやすい。</li> </ul> <p>都（奈良県）と西国（九州）、あるいは中国とを結ぶ中継地点</p>



### 「摂播五泊」って、何だろう？

古くから文化が開けた大阪湾から播磨灘にかけての地域には、奈良時代に行基という高僧（位の高いお坊さん）が「摂播五泊」という5つの港をつなぐ航路を定めたと伝えられています。港は、河尻（尼崎市）から大輪田（兵庫区）、魚住（明石市魚住）、韓（姫路市の形町）、櫻生（たつの市）の5つの泊です。



5つの港(摂播五泊)



行基とはどんなお坊さんだったのかな？調べてみよう！

時代	神戸港の歴史
平安時代	<p>平清盛<sup>たいらのきよもり</sup>は中国との貿易を本格的に行うために、大輪田の泊<sup>おおわだ とまり</sup>に大規模な手を加え、宋<sup>そう</sup>（中国）との貿易の拠点<sup>きょてん</sup>としました。</p> <p>大輪田の泊は、これにより繁栄<sup>はんえい</sup></p>

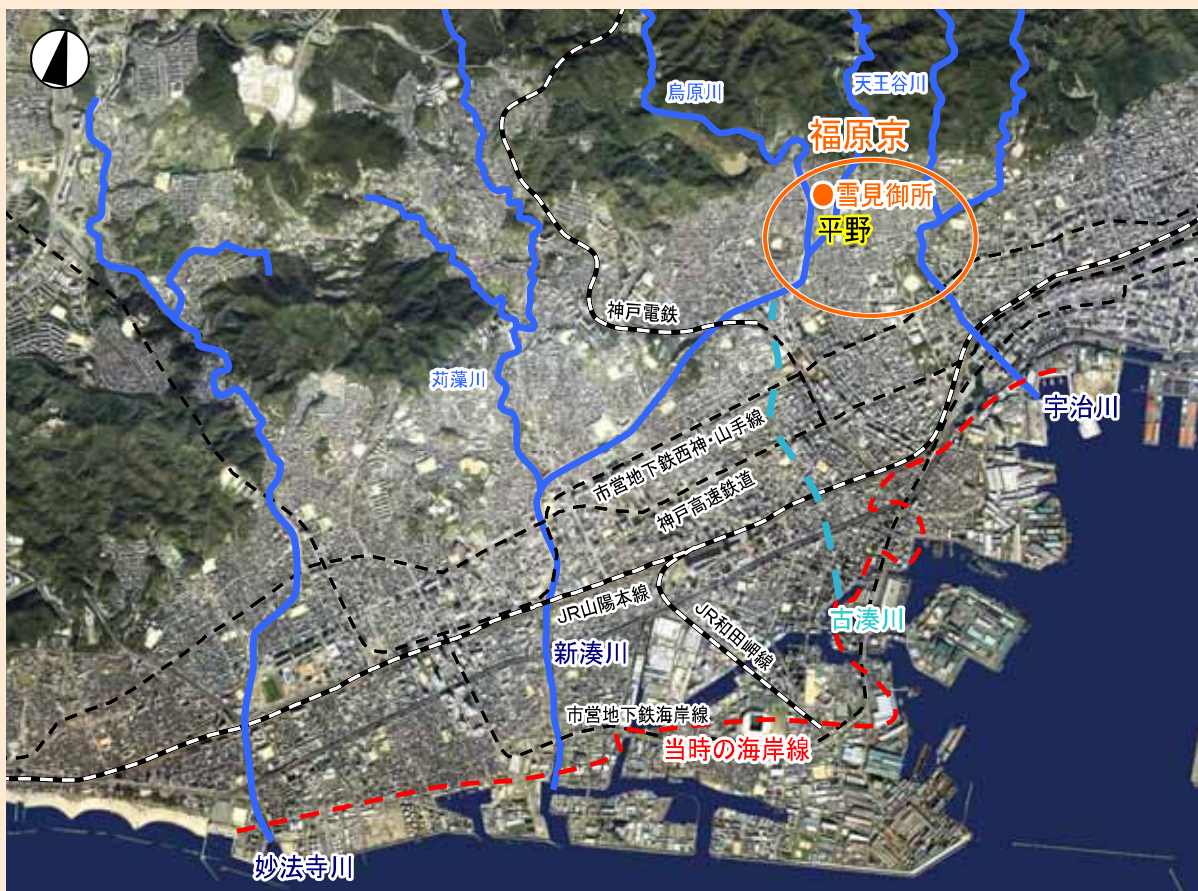


### 半年間だけ神戸に都があったんだよ！

平安時代末期になると、貴族の時代から、武士の時代が変わっていきました。武士として初めて権力を持ったのが平清盛です。

神戸の地を好んだ清盛は、「雪見御所<sup>ゆきみのごしよ</sup>」という別荘<sup>べっそう</sup>を現在の湊山小学校の辺りに建てたといわれ、その名は「雪御所町<sup>ゆきのごしよ</sup>」や「雪御所公園」として残っています。

清盛は、都を400年以上続いた京都から神戸に移し、また、大輪田の泊にも大規模な手を加えました。この時の都を「福原京<sup>ふくはらきやう</sup>」（現在の平野付近）といいます。しかし、準備不足や土地が狭いなどの問題により、わずか半年でもとの京都に都をもどしました。



福原京周辺の様子



きょうがしま まつおうまる  
**経ヶ島は、松王丸という少年に関係があるんだよ！**

おおわだ とまり  
 大輪田の泊は、自然の良港でしたが、南東からの風や波は防ぎようがありませんでした。  
 たいらのきよもり えげやま しおつちやま  
 そこで平清盛は、会下山の南にあった塩槌山をくずし、土砂を海に運んで、港の東の海中に人工の島（築島）を築いて、風や波を防ごうとしました。しかし、深い海中によろやく港の形ができ始めると、決まって嵐や潮流ちようりゆうがそれを流し去るのでした。

清盛は占い師に占わせたところ、「島を築くには、海中の龍神りゆうじんの怒りを鎮めねばならぬ。そのためには人柱ひとむらを龍神りゆうじんに捧げればよい。」とのことでした。そこで人柱にするための旅人たび狩りが始まり、捕まえられた人々の泣き声なみこゑが、輪田の松原まつはらに響きわたったそうです。

その当時、清盛につかえる松王丸という17歳の少年がいました。人々の悲しみを見かねた松王丸は、自ら人柱となりました。

松王丸が海に沈んでいく中、人々は涙を流しながら、お経を書き写した大小の石を海へ投げ入れました。この時たくさんのお経が沈められたので、築島は「経ヶ島」とも呼ばれるようになりました。



松王丸像



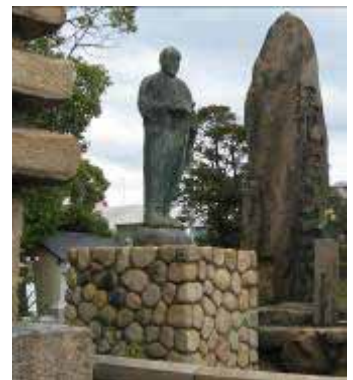
くようとう  
 松王丸供養塔(来迎寺)

平清盛は、経ヶ島築造の大事業を完成させ、今日の神戸港の基礎をつくりました。経ヶ島があったのは、現在の新川運河の辺りだといわれています。

そのほとりには、高さ約8.5メートルの十三重の石塔が立つ清盛塚があり、隣には、平清盛像が建てられています。かつては清盛のお墓と信じられていましたが、清盛の供養塔であることが判明しています。



清盛塚



平清盛像



**私たちの街に残る平清盛のゆかりの場所を巡ってみよう！！**

時代	神戸港の歴史
鎌倉時代 かまくら	東大寺の重源 <small>ちようげん</small> という僧が、清盛の工事を引き継ぎ、完成させました。 港の管理は、入港料徴収 <small>ちようしゆう</small> と引き換えに東大寺や興福寺 <small>こうふくじ</small> にまかされ、このころから大輪田 <small>おおわだ</small> の泊 <small>とまり</small> は兵庫の津 <small>ひょうご</small> と呼ばれるようになりました。 <b>兵庫の津の始まり</b>
室町時代 むろまち	あしかがよしみつ <small>みん</small> 足利義満が明との貿易の拠点としました。 <small>きよてん</small>
江戸時代	兵庫の津は、物流・商業の中心地となった天下の台所大坂の隣港として栄え、瀬戸内海航路の重要な港として発展しました。 北海道の海産物や東北・北陸地方の米などを日本海・瀬戸内海を <small>きたまえ</small> 通って大坂へ運んだ北前船が、兵庫の津へ入港するようになりました。 <b>1858年、日米修好通商条約により、兵庫港の開港を約束。</b> 実際には、神戸の浜 <small>きよりゆうち</small> に居留地が造られる。 <b>1868年、神戸開港</b>
明治時代	人・物・情報が行き交う拠点として、また国際貿易港として、日本を代表する港に発展しました。



和田岬わだ みさきには、勝海舟かつかいしゆうが設計した砲台ほうだいがあるんだよ！

文久2年（1862年）外国艦船が大阪湾に来るようになり、幕府は海岸沿いを守るために、川崎（湊川）と和田岬などの大阪湾沿岸に砲台を築きました。

和田岬砲台は、勝海舟の設計で、元治元年（1864年）に建設されました。砲台は2階部分に11門、屋上に16門の大砲が設置される予定でしたが、実際に置かれることはありませんでした。

大正10年（1921年）3月3日、国から兵庫県の史跡第1号に指定されました。



和田岬砲台

砲台は三菱重工神戸造船所の中にあります。見学には神戸造船所への予約が必要です。

勝海舟ばくまつ いしん（1823～1899）幕末・明治維新期の政治家。その後、1864年には幕府海軍の近代化を進めるため、神戸に海軍操練所そうれんじょを開きました。



和田岬の砲台を見学してみよう！！

## 2-2-2. 戦いの舞台となった街



## 平安時代末

平安時代の終わりには、武士が権力を持つようになりました。その武士も平家と源氏が激しく争いました。

六甲山地には、源平合戦の舞台となった「一の谷」があります。この「一の谷の戦い」で敗れた平家は西へ逃げ続けましたが下関で滅び、源氏により鎌倉幕府が開かれました。



一の谷合戦の状況  
(出典: 落合重信著『神戸の歴史』)



## 六甲山地には、義経伝説がたくさんあるんだよ！

一の谷の戦いで活躍した源氏の武将が源義経です。義経は京都から亀岡、篠山、藍那を経て、平家の陣が一望できるところ（鶴越）より、馬で急な坂を一気に駆け下り、平家の陣地に攻め込みました。

この義経が移動した足跡がいろいろな所に残っています。



源 義経

義経が鶴越に向かった時に通ったといわれる三木市志染町伏山の判官神社。



判官神社

- 義経一行の軍議の地だと伝える神戸市北区藍那の相談ヶ辻。



相談ヶ辻

- 鶴越にたどりついた義経軍が木に馬をつないでひと休みを取ったといわれる高尾地蔵院境内の義経駒つなぎの松。



義経駒つなぎの松



一の谷の戦いで活躍した義経が移動した足跡を訪ねてみよう！



かまくら  
鎌倉時代～室町時代

マップ⇒

10

3

7

鎌倉時代の終わりごろに即位した後醍醐天皇の政治は、時代の担い手だった武士から満足されず、多くの武士は足利尊氏を中心に立ち上がりました。

これに対し、天皇の味方をした武士が楠木正成で、正成は会下山に戦いの本部を置き、わずか数百名の軍で、数万の足利尊氏の軍を迎え撃ちました。

これが「湊川の戦い」です。この戦いで正成は敗れ、その後、尊氏は室町幕府を開きます。

かつて旧湊川が流れていた場所にある湊川公園には、「湊川の戦い」での正成の姿を思わせる像があります。また、正成が戦いの本部を置いた会下山公園の頂上付近には「大楠公湊川陣之遺蹟碑」が建てられています。



楠木正成の像(湊川公園)



大楠公湊川陣之遺蹟碑(会下山公園)



## 水戸黄門は、楠木正成のファンだったんだよ！

江戸時代に入り、水戸黄門で有名な水戸光圀公は、天皇のために真心をつくしてつかえた楠木正成を敬い、正成の墓石を建てさせました。

その正成のため、明治時代に建てられた神社が湊川神社で、「楠公さん」の名前で親しまれています。境内には今も光圀公が書いた「嗚呼忠臣楠子之墓」の碑があり、また、この碑を見守るように光圀像が建てられています。



湊川神社



嗚呼忠臣楠子之墓

## 戦国時代

中央区にあった花隈城は、織田信長が中国地方へ勢力をのばすために、荒木村重に命じて大きくさせた城といわれています。しかし、村重は反旗をひるがえしたため、信長に滅ぼされてしまいます。

その後は、花隈城の攻め落しに手柄のあった池田信輝が、この地域を治めることとなり、花隈城の石材などを用いて新たに兵庫に城を築き、兵庫は城下町となりました。

しかし、織田信長が亡くなり、豊臣秀吉がこの辺りを治めることになると、池田氏は兵庫を出たため、兵庫は城下町としての短い歴史を終えました。



花隈城の石垣



兵庫の津にあった役所が、最初の兵庫県庁だったんだよ！

兵庫の津は、江戸時代初期には尼崎藩のものでしたが、その後、幕府のものとなりました。そこにあった役所は、大阪町奉行の役人などが勤める場所として利用されていました。

この役所は初代兵庫県知事となった伊藤俊輔（後の博文）によって、慶応4年（1868年）から最初の兵庫県庁として利用されました。



初代知事：伊藤博文  
(国会図書館ホームページより)

その後、兵庫城は新川運河の建設などにより姿を消してしまいました。中央市場付近に城があったといわれ、新川運河のほとりやキャナルプロムナードのそばに兵庫城跡の碑（兵庫県庁の碑）や、兵庫城周辺の見取り図などを示す現地案内板（新川運河の歴史）が建てられています。



兵庫城跡の碑(兵庫県庁の碑)



現地案内板(新川運河の歴史)

### 2-2-3. はだお 履き倒れの街



長田区は、神戸の代表的産業であるゴム工業と「履き倒れの町 神戸」を象徴するケミカルシューズ（革製以外のビニール製などの靴）産業が盛んなところです。しかし、阪神・淡路大震災により、市内192社（日本ケミカルシューズ工業組合に加盟）のうち152社が全半壊する大きな被害を受けました。

現在、神戸市ものづくり復興工場やシューズプラザの活用、イタリアとのデザイン交流などにより活性化を図っています。なお、神戸市ものづくり復興工場は、中小企業の復興を支援する全国初の行政による貸し工場です。



シューズプラザ



神戸では、ケミカルシューズ以外にも盛んな産業があるんだよ！

長田区や兵庫区では、ケミカルシューズの他に、マッチ、ゴム製品などの地場産業があり、神戸経済を支えてきました。

神楽にある新湊川公園には、「わが国ゴム工業勃興の地」の碑が建てられています。



「わが国ゴム工業勃興の地」の碑



新開地には、すごい映画館があったんだよ！

ヨーロッパで発明された映画がいち早く神戸に上陸すると、新開地には、続々と映画館が建てられました。その象徴が東京の帝国劇場に負けないものとして建設された聚楽館です。

大正から昭和初期の活動写真全盛期には、新開地は映画や演劇のメッカとなりました。



ライトアップされた聚楽館  
(絵葉書資料館蔵)










今はいている靴は、どこで作られたものなのかわかるかな？

## 2-2-4. 街の歴史を語る様々な「あかし」



私たちの街には、街の歴史を物語る「あかし」が、数多くあるんだよ！  
新湊川沿いを散策すると、タイムトラベルができるんだよ！

あなたの知ってる場所に を付けましょう。

遺跡・神社など	① <small>いけす ひ</small> 生簀跡の碑	② 雪見御所跡	③ 兵庫大仏(能福寺)	④ <small>いつべんしょうにんびょうじよ</small> 一遍上人廟所(真光寺)
				
チェック				
遺跡・神社など	⑤ 大楠公湊川陣之遺蹟 (会下山公園)	⑥ 長田神社	⑦ <small>えびす</small> 柳原蛭子神社	⑧ 巖島神社
				
チェック				
記念碑(災害にまつわる)	⑨ 再建復興鳥居 (和田神社)	⑩ 被災鳥居の記念碑 (三石神社)	⑪ こわれた鳥居の記念碑 (御崎八幡神社)	⑫ 移植された被災木 (大丸山公園)
				
チェック				
記念碑(災害にまつわる)	⑬ 石碑「記憶」 (長田神社馬場先鳥居)	⑭ 寅地蔵(JR新長田駅)	⑮ 鎮魂と復興のベンチ (アスタくにづか)	⑯ 「復興基準点」 (大国公園)
				
チェック				

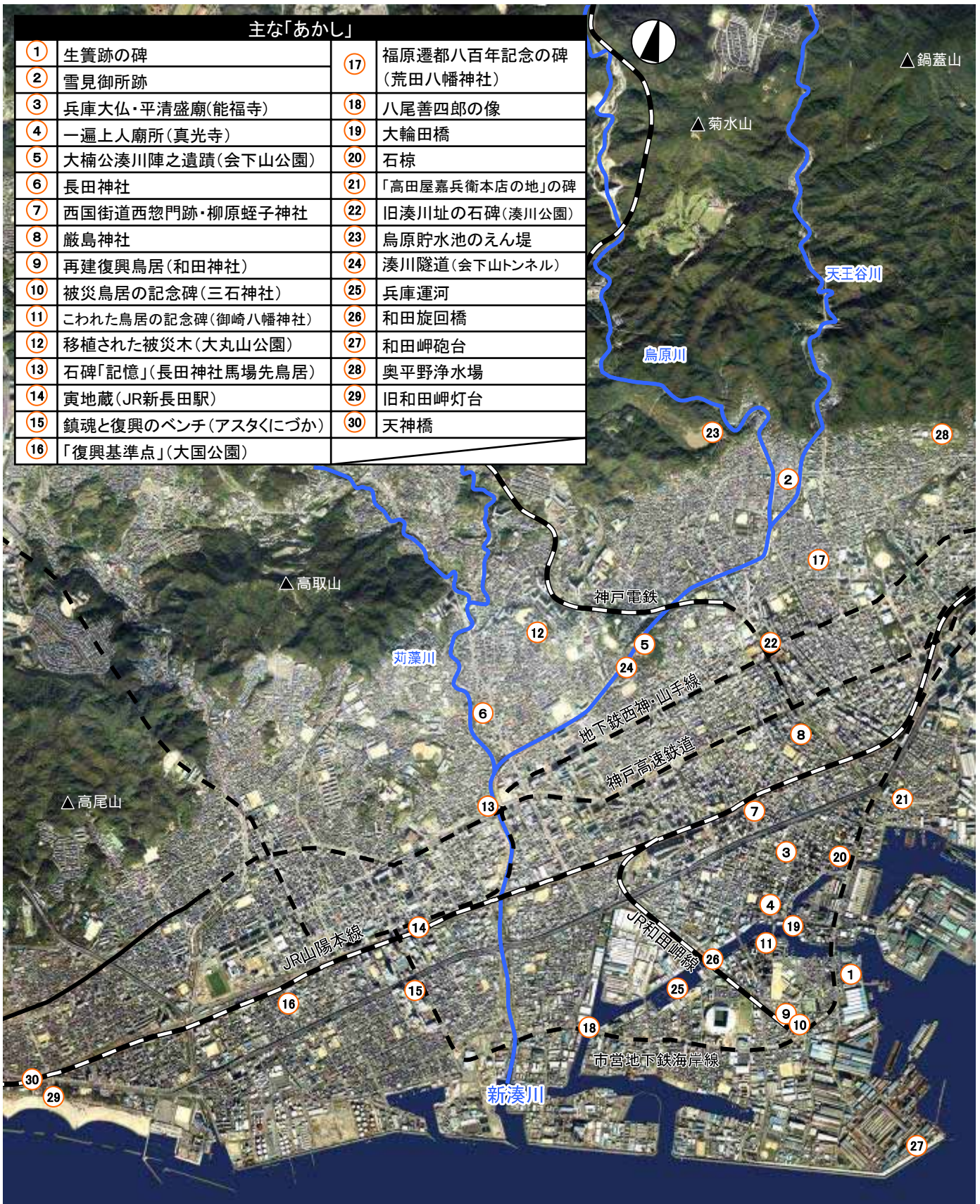
歴史を物語るあかし	3 平清盛廟(能福寺)	17 福原遷都八百年記念の碑 (荒田八幡神社)	18 八尾善四郎の像	19 大輪田橋
チェック				
歴史を物語るあかし	7 西国街道西惣門跡 (柳原蛭子神社)	20 いわくら 石椋	21 「高田屋嘉兵衛本店の地」の碑	22 旧湊川址の石碑 (湊川公園)
チェック				
歴史が残した遺産 (近代土木遺産)	23 烏原貯水池のえん堤	24 湊川隧道 (会下山トンネル: 23P参照)	25 兵庫運河	26 和田旋回橋
チェック				
歴史が残した遺産 (近代土木遺産)	27 和田岬砲台	28 奥平野浄水場	29 旧和田岬灯台	30 天神橋
	 ※見学には予約が必要			
チェック				

こうした街の歴史を物語る「あかし」が残っているのは、当時の人々の「願い」や「いわれ」などが背景にあり、後の時代に伝えようとした思いがあります。

例えば、私たちの暮らす街には、昔の人々が今に残した「近代土木遺産」と呼ばれるものが多く残っています。

近代土木遺産とは、幕末から第二次世界大戦までに建設された土木施設のうちに、特に技術やデザインなどがすぐれ、文化財として次世代に残す必要のあるものの事です。

◆主な「あかし」位置図



## 2-3. 私たちの街の祭りや地域の活動



私たちの街は、源平げんぺいロマンが息づく歴史の舞台としての顔、兵庫の津つのように交通や貿易の拠点としての顔、十日えびすや「七福神めぐり」をはじめとした伝統文化の街としての顔など、様々な街の顔をもっています。

また、この街を流れる新湊川は、流れる場所を変えながらも過去から現在いたに至るまで、その流れを絶やすことなく、私たちの街を見つめています。

私たちの街では、新湊川や六甲山地などの自然、さらに伝統文化を守り・伝え・育てていく様々な活動が行われています。



なんこうむしやぎょれつ  
楠公武者行列の様子

## 2-3-1. 伝統・文化の息づくまち



湊川神社には、楠木正成公（41P参照）が祀られており、毎年5月下旬に楠公にちなんだ「楠公祭」が開かれています。祭りでは、楠公武者行列や湊川神社悠心太鼓、子供舞楽など様々な奉納芸能が行われています。

また、この他にも地域の人々に親しまれているお祭りが数多くあります。



楠公武者行列の様子



子供舞楽の様子



## 長田神社には、神々のお使いの鬼がいるんだよ！

長田神社は、奈良時代に書かれた『日本書紀』にも登場する古い神社です。商工業や諸産業の守護神が祀られていて、商工業の盛んな長田の守り神にふさわしいといえます。

正月の初詣のにぎわいとともにも有名なのが、室町時代から続く節分の追儺式です。七匹の鬼たちが神に代わって松明を振りかざし、災難を祓う厄除けの神事で、兵庫県の重要無形文化財に指定されています。



節分の追儺式



どんな鬼がいるか、節分に長田神社に行ってみよう！





### 「十日えびす」って知ってる？

「柳原のえべっさん」として親しまれる柳原蛭子神社では、毎年1月10日とその前後に「十日戎大祭」が行われます。参道にはぎっしり出店が立ち並び、商売繁盛や家内安全、学業成就を祈って多くの参拝者でにぎわいます。



十日戎大祭の様子



### 兵庫「七福神めぐり」って知ってる？

「七福神めぐり」は、江戸時代に庶民の間で大ブームになりました。福を呼ぶ神さまを7ヶ所おまいりすることで「七難即滅・七福即生（7つの災いから逃れ、7つの福を授かる）」するといわれています。訪れた神社で福絵馬や朱印を集める風習は江戸時代からあり、今でも受け継がれています。



兵庫「七福神めぐり」



家族や友だちと兵庫「七福神めぐり」をしてみよう！！

## 2-3-2. 「新湊川」での活動



新湊川は、市民が気軽に親しめるよう整備され、夏には、川の中に入って遊ぶ子どもたちの姿を見ることがもできます。

また、新湊川には、近代土木遺産である湊川隧道（会下山トンネル：23P参照）があり、保存を願う県民・市民のボランティア活動や研修を行う場として活用されています。



## 「湊川隧道保存友の会」では、どんな活動をしているの？

湊川隧道の保存・公開などに関するボランティア活動とその支援を行っています。



一般公開



地元高校プラスバンド部コンサート



## 「新湊川を守り育てる会」では、どんな活動をしているの？

新湊川の美化活動や河川を利用した地域行事、河川環境保存活動を行っています。



プランターの設置



歩道の清掃活動



新湊川調査観察の発表会



遊歩道の清掃活動



家族や友達と活動に参加してみよう！！

## 2-3-3. 様々なまちづくり活動



私たちの街には、どんなまちづくり活動があるのかな？

各団体のHP

### KOBE子どもエコクラブ

子どもたちが地域の中で行う環境学習活動や環境保全活動を応援する仕組みです。子どもたちのグループに大人が1人以上加わっていれば、誰でも活動することができます。

<https://www.city.kobe.lg.jp/a36643/kurashi/recycle/education/ecoclub.html>



### 六甲山の自然を学ぼう会

六甲山やその周辺の地域の環境保全に関する事業を行い、自然を大切にすることを育て、豊かな環境の保全を目的に活動しています。

<http://www.rokkosan-shizen.com/>



### ドングリネット神戸

街の緑をふやすために、子どもからお年寄りまでの市民ひとりひとりが積極的に、楽しみながら参加できるしくみとして「ドングリ銀行神戸」を開いています。ドングリを拾って預けたり、苗木を育てたりして、街の緑づくりに参加できます。

<http://www.hyogo-intercampus.ne.jp/gallery/donguri/intro.html>



各団体のHP

六甲山自然案内人の会

六甲山<sup>およ</sup>及び周辺の地域で、定期的な自然観察会の他、六甲山ガイドハウス（六甲山自然保護センター分館）に常駐し、土・日・祝日に山の案内人として、ボランティアガイドを行っています。

<http://www.rokkosan.gotohp.jp/>



兵庫県立 人と自然の博物館

貴重な資料標本<sup>まじょう</sup>と研究<sup>けんきゅう</sup>を通して、自然・環境に関する生涯学習<sup>しょうがいがく</sup>に役立つ「人と自然の共生博物館」をめざし、積極的な活動を行っています。

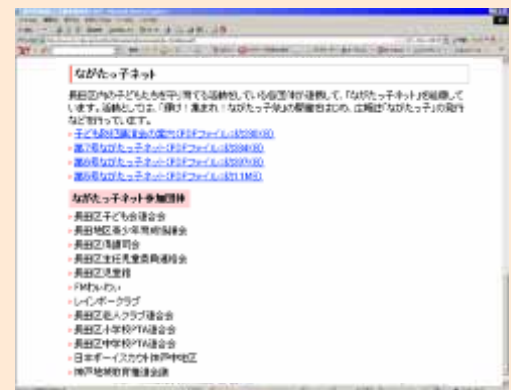
<https://www.hitohaku.jp/>



ながたっ子ネット

長田区内の子どもたちを守り育てる活動<sup>いっしょ</sup>をしている各団体が一緒に活動<sup>いっしょ</sup>しています。「輝け！集まれ！ながたっ子祭」<sup>かがや</sup>などを行っています。

<https://www.city.kobe.lg.jp/h53961/kuyakusho/nagataku/machizukuri/nagatako.html>



(平成25年(2013年)3月時点)



みんなで、まちづくりの活動に参加してみよう！！